



雪崩・地すべり 研究センターたより

年3回発行・第69号
2014. 11月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 雪崩・地すべり防止技術セミナー ・トピックス(妙高地区治水砂防協会雪崩・地すべり研究推進協議会合同研究発表会、学会研究発表会、国際会議 など) ・ニュートンのリンゴの木

雪崩・地すべり防止技術セミナー

11月14日に、新潟県長岡市において雪崩・地すべり研究推進協議会の主催による「第8回雪崩・地すべり防止技術セミナー」が開催されました。今年には新潟県中越地震から10年目の年になります。この間に、関係機関をはじめ地域住民の精力的な復興・復旧活動により被災地が再建されてきました。今回のセミナーは、大きな爪痕を残したこの地震を教訓に、最新の研究成果を共有することで、さらに国、県、市町村、研究機関、地域住民が一体となり、一層の防災意識の高揚と災害に強いまちづくりを目指すことを目的に開催されました。なお、参加者は、行政関係者及び建設技術者など61名でした。

セミナーでは、北陸地方整備局 湯沢砂防事務所 越智所長により

「新潟中越地震で発生した地すべりとその後の対策工事について」と題して講演をいただきました。その後、最新の研究成果として、新潟大学災害・復興科学研究所水野特任准教授が「リモートセンシング等を用いた地すべり・土砂災害の新たな把握



手法について」、当センターでは、木村が「上越市で発生した国川 地すべりの運動と積雪の影響について」、松下が「2014年2月関東甲信の大雪で発生した雪崩と調査研究について」を、それぞれ紹介しました。また、午後は、雨天の中、中越地震で発生した地すべり等の対策現場の視察が行われました。

トピックス

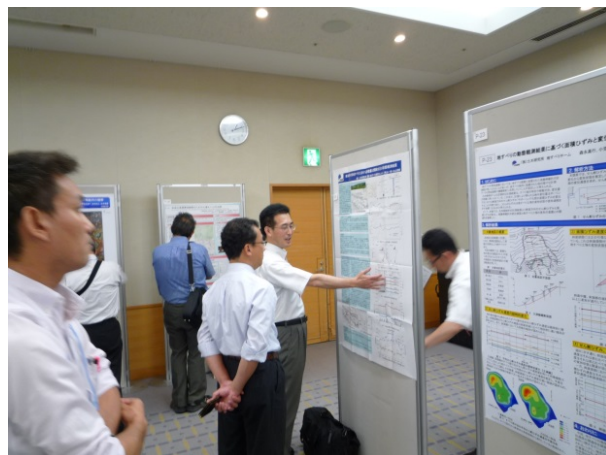
■妙高地区治水砂防協会 雪崩・地すべり研究推進協議会 合同研究発表会

7月23日に新潟県妙高市で開催され、新潟県上越地方の建設業及びコンサルタント等の技術者98名が参加しました。発表では、新潟県上越地域振興局妙高砂防事務所の武田さんが「国川地すべりの施工について」、当センターでは桂が「集落雪崩対策施設が設置された斜面の点検に関する実態調査結果について」、丸山が「雪崩・地すべり研究センターで開発した地すべり調査機器等の紹介」と題して各々発表しました。



■学会研究発表会

8月20～21日に茨城県つくば市で日本地すべり学会研究発表会、9月17～21日に青森県八戸市で日本雪氷学会研究大会、10月16～17日に山口県山口市



地すべり学会ポスター発表会場

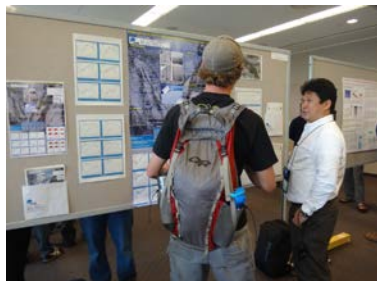
で全国地すべりがけ崩れ対策協議会 研究発表大会、10月21～23日に福岡県福岡市で日本気象学会が、それぞれ開催されました。当センターでは、表1に示す研究発表を行いました。

表1 研究発表一覧表

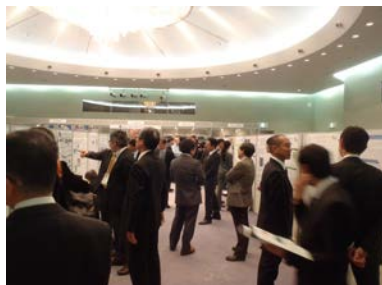
| 学会等 | タイトル | 発表者 |
|-----------------------|---|------|
| 地すべり学会 | 地震動による地すべり土塊のせん断挙動 | 丸山清輝 |
| | 融雪に着目した地すべり地の地下水流動層調査 | 桂 真也 |
| | 地形解析に基づく融雪地すべりの流動化危険箇所評価の試み | 木村 諒 |
| | 新潟県沖見地すべりにおける移動量と間隙水圧の動態観測結果 | 秋山一弥 |
| | 谷状の移送域を伴う地すべり地形の特徴に関する研究 | 畠田和弘 |
| 雪水学会 | 2013/2014 冬期における雪崩の動態観測結果 | 秋山一弥 |
| | 日本の山岳地で発生する雪崩の α - β モデル | 秋山一弥 |
| | 2014年2月の大雪時における雪崩発生条件について | 松下拓樹 |
| | 斜面と平地における積雪内の水の浸透に関する現地実験(2) | 松下拓樹 |
| | 湿雪の引張および圧縮破壊強度に関する現地測定 | 松下拓樹 |
| | 関東甲信大雪において建物に被害を及ぼした雪崩の流下状況 | 池田慎二 |
| | 斜面積雪のシミュレーションにおける水みちへの浸透量調節方法の検討 | 池田慎二 |
| | 融雪水の浸透による地すべり地の地下水流動層の変化 | 桂 真也 |
| 全国地すべりがけ崩れ対策協議会研究発表大会 | 雪崩・地すべり研究センターにおける施設の維持管理に関する研究-地すべり関連機器の開発及び雪崩点検実態調査結果について- | 桂 真也 |
| 日本気象学会 | 2014年2月の大雪時の雪崩発生条件に関する一考察 | 松下拓樹 |
| | 積雪期における降雨の発生実態(2)-発生頻度の地域的な特徴- | 松下拓樹 |

■国際会議

9月29日～10月3日に、国際雪科学ワークショップ2014がカナダアルバータ州バンフで開催されました。バンフはカナディアン・ロッキー山脈観光の中心地であり、夏季の登山、冬季のスキーなどで賑わうリゾート地です。当センターからは、秋山が「Avalanche observations using video and seismometer in cold and warm



国際雪科学ワークショップ2014



インタープリヴェント2014

snowy regions」を、松下が「On the relationship between water infiltration and snowpack structure」を、池田が「Estimation of water infiltration through channels in snowpack on a slope」を各々発表しました。

また、11月25～28日に、インタープリヴェント

国際シンポジウム2014が奈良市で開催されました。当センターでは、桂が「日本における長距離移動した融雪地すべりの発生箇所の地形的特徴」を、木村が「2011年長野県北部地震で発生した長距離移動地すべりの分布特性」を各々発表しました。

■土研新技術ショーケース

新潟市において、10月8日に「北陸地方整備局・新潟県・新潟市・大学との意見交換会」が、10月9日に「土研新技術ショーケース2014 in 新潟」がそれぞれ開催されました。当センターでは、丸山が当センターで開発した地すべり調査及び地すべり防止施設維持管理機器（加熱式地下水検層器、集水井内観察カメラ、集水管閉塞防止器）について紹介しました。



■長野県飯山市・中野市地域地すべり協議会研修

11月12日に、長野県飯山市・中野市地域地すべり協議会会員33名が当センターを訪れました。今回の来訪は、会員の技術研鑽等を目的とした先進地視察研修の一環として行われたものです。当センターでは、松下と桂による雪崩と地すべりに関する基礎的な話を聴いていただき、その後は研究施設の視察をしていただきました。




ニュートンのリンゴの木

ニュートンのリンゴの木

写真は、11月17日のりんごの木の状況です。数個実が着いたのですが、H23-H24の積雪による枝折れの影響が続いており、全て落果してしまいました。来年の豊作に期待します。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますので、ご覧下さい。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
 土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター 
 住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
 TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: http://www.pwri.go.jp
 掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。